

「旧アルバム」より～

『蒲田跨線橋（蒲田陸橋） ②』

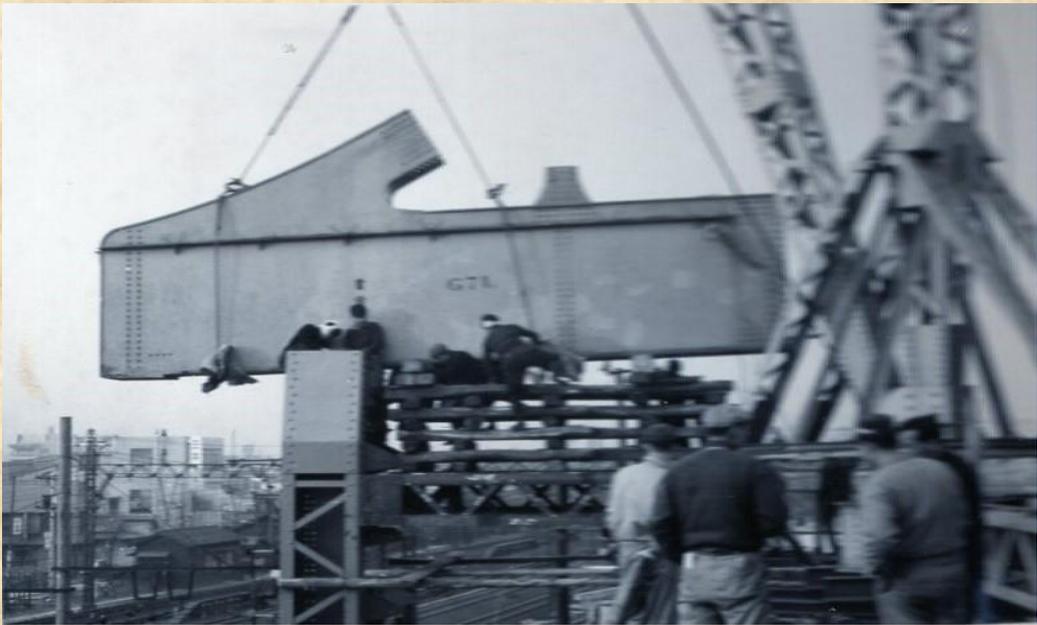
蒲田駅構内にあった踏切は、遮断機が下りるとなかなか開かないため“開かずの踏み切り”の悪名がありました。

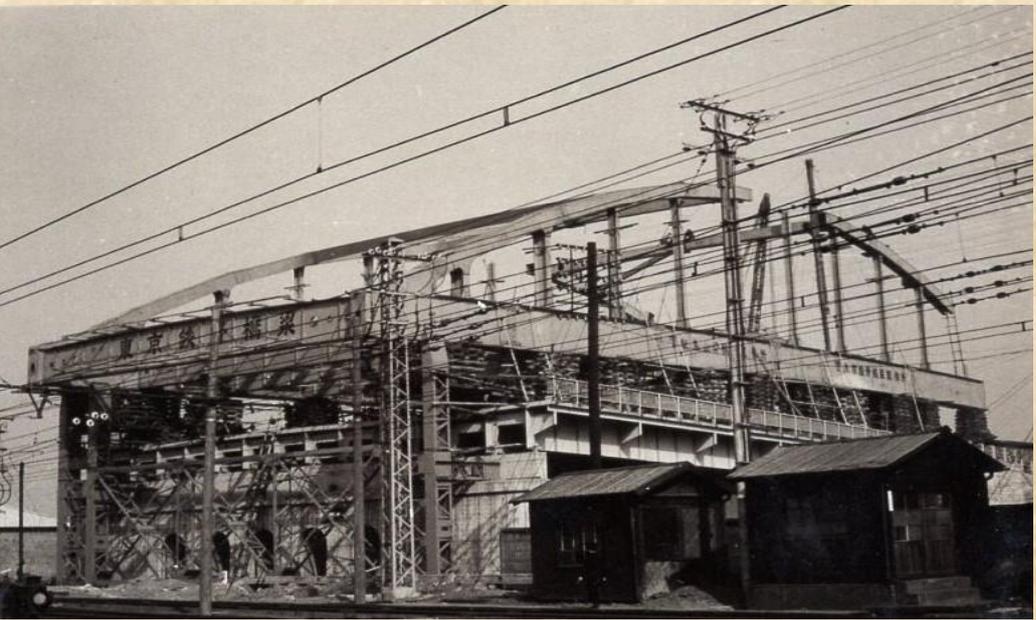
蒲田跨線橋（蒲田陸橋）の架設工事は、その踏切をなくして立体交差にするために行なわれたものです。

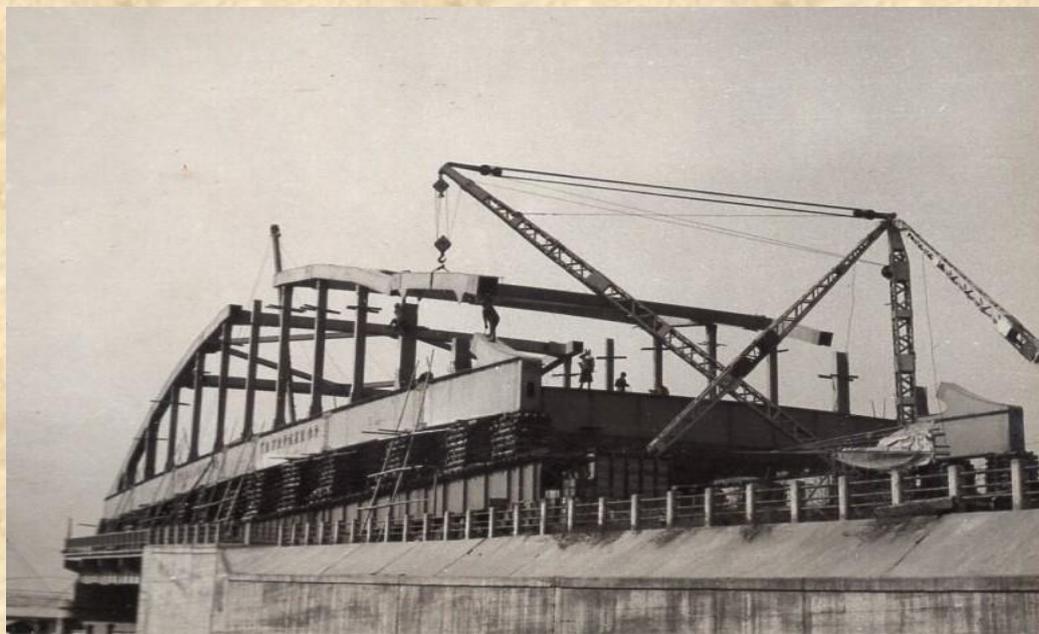
ここに掲げる写真は、1961年（昭和36年）5月1日から2日に亘って行われた送り出し架設の様様を中心に記録した現場工事のアルバムから抜粋したものです。

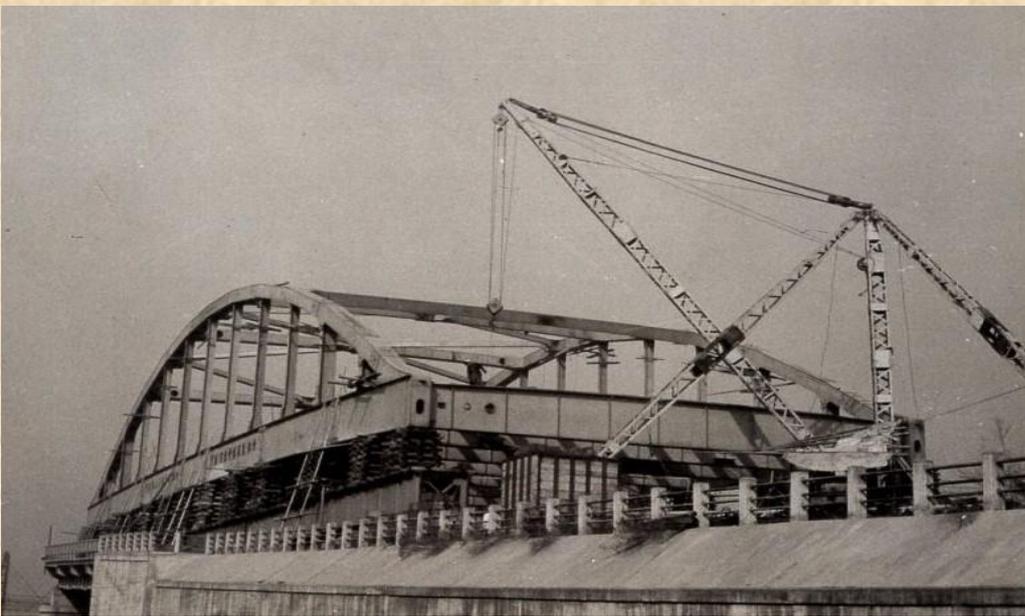


蒲田駅構内にあった“開かずの踏み切り”です。複数の電車が頻繁に往来し、踏切が上がることは稀であったため、“開かずの踏み切り”と呼ばれていました。



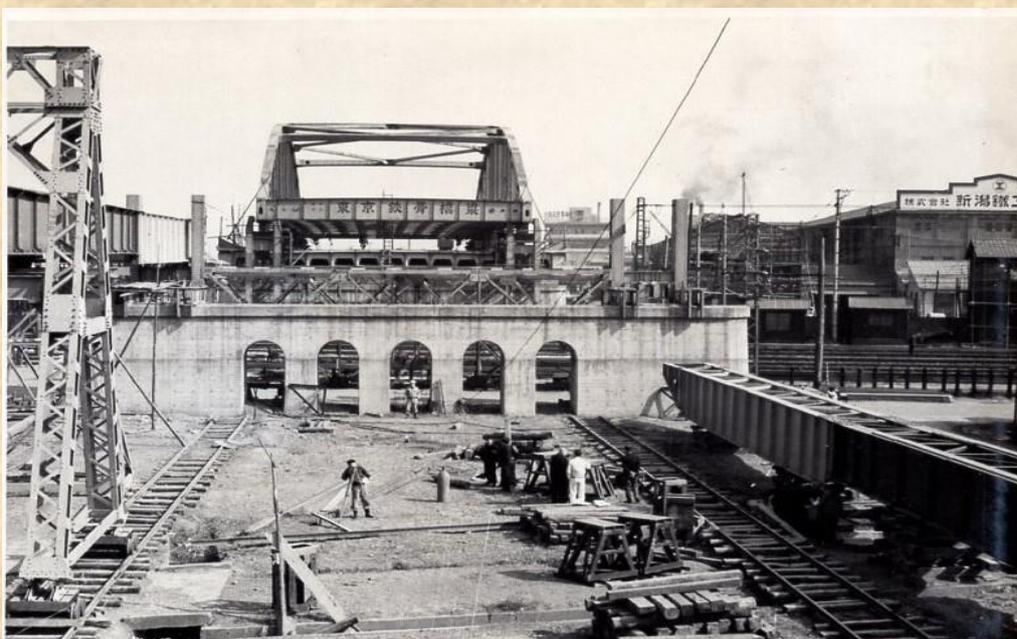


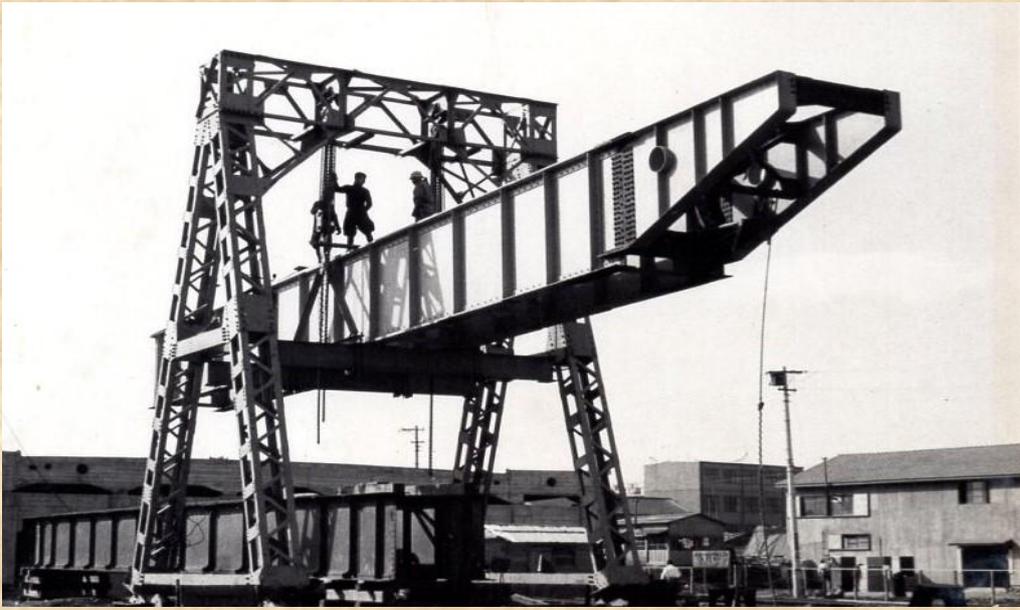


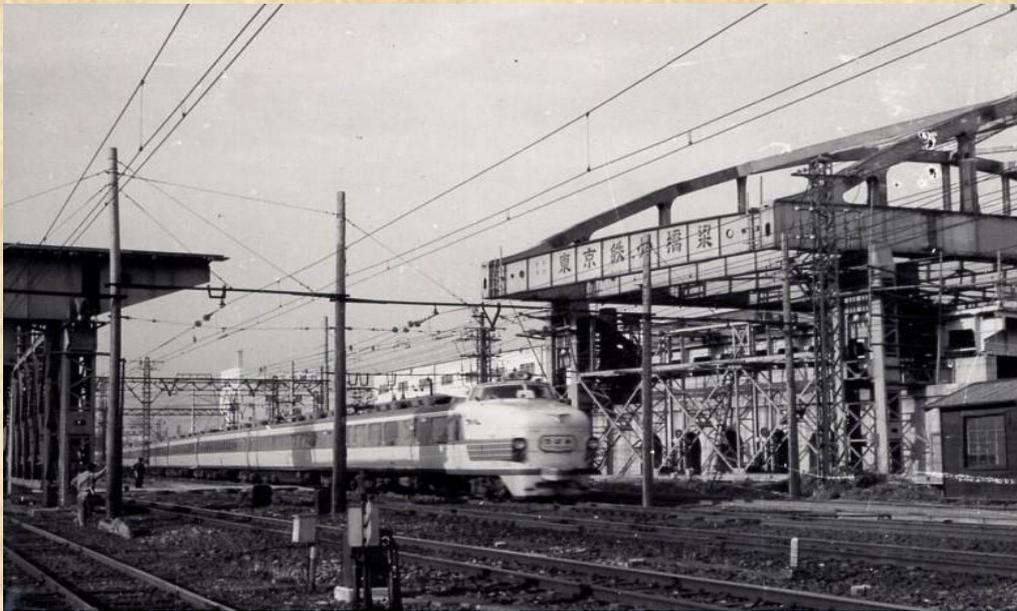




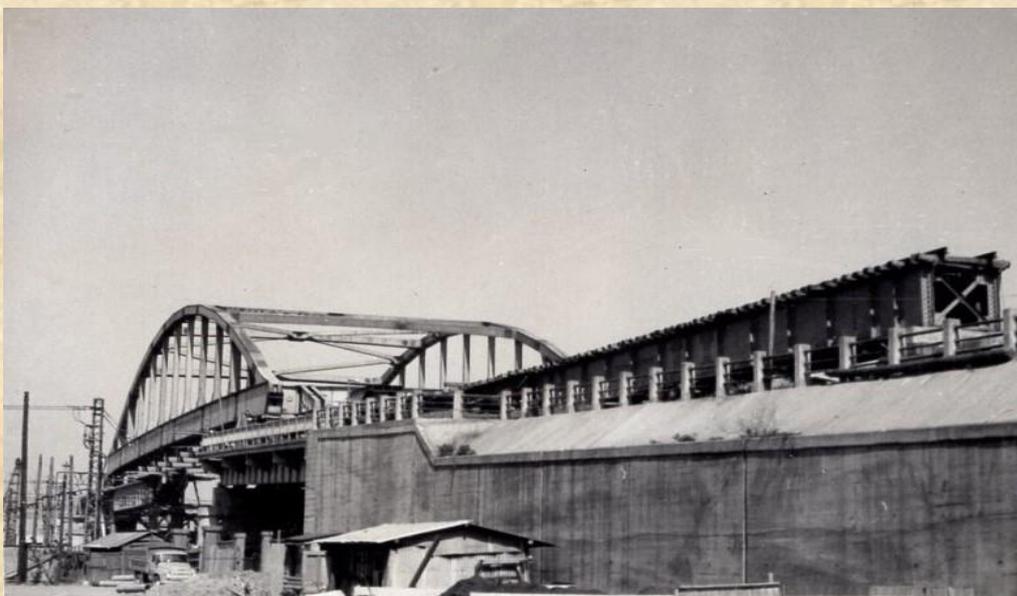
現場接合はリベットで実施



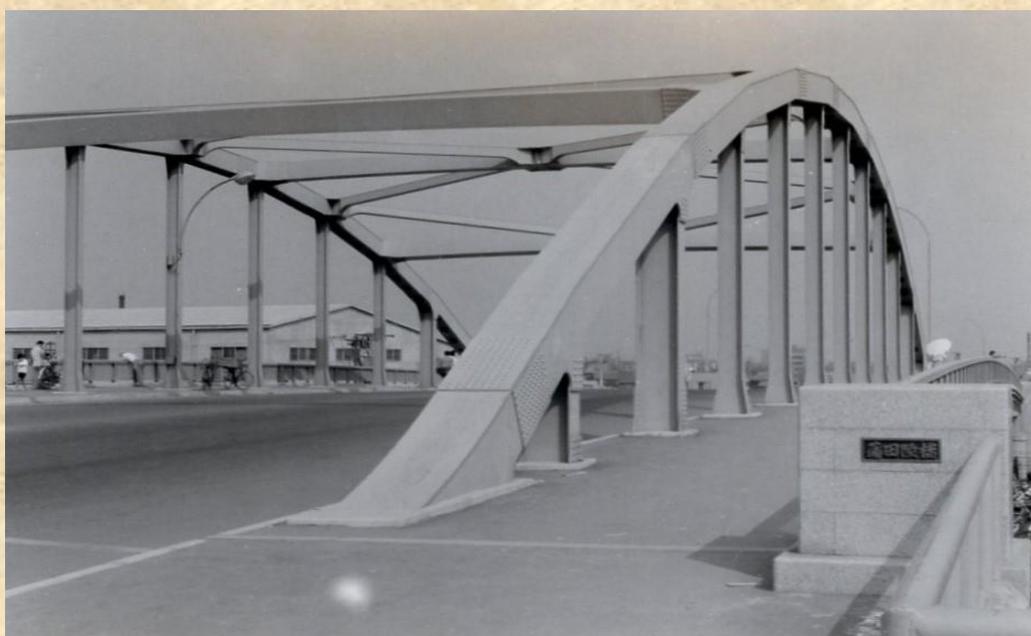




台車を用いた送り出し架設工法







蒲田跨線橋 (87m×24mのローゼ式アーチ桁橋および単純合成鉄桁橋、各1連)は、東京都大田区に位置する東海道本線を跨ぐ橋です。

当社は、当工事を1957年(昭和32年)に受注しました。

工場製作を順調に終えたものの、鉄道網の大動脈である東海道線と京浜東北線を跨いで巨大な橋を架ける計画であったため、東京都と国鉄(現JR東日本)との間で施工協定を締結するのに時間を要し、受注から架設完了までに4年ほどの歳月を要しました。